

◎次の文章をよく読んで、解答用紙の問いに答えなさい。

クラス委員長は、ぼくと三票の差で、脇山茂に決まった。彼は、前に出て挨拶をするために立ち上がった瞬間、振り返り、ぼくの顔を誇らしげにちらりと見た。相変わらず仕様のない奴だなあと、ぼくは思う。彼は、ぼくが忌々しくてたまらないのだ。

「えー、皆さんに選出されて、委員長をつとめることになった脇山です。まだなれないクラスの皆さんが、ぼくを選んでくれたことは、大変光栄で……」

光栄も何も。ぼくは、頬杖をつきながら、ぼんやりと彼の挨拶を聞いていた。皆、彼の名前が、試験の成績発表で常に一位の場所に載っているから、書いたただけだ。クラス委員長が誰になろうと知ったことではないのだ。それなのに、彼は、頬を紅潮させて、喋りまくっている。委員長をやると、進学に有利なのだろうか。あれ？ 大学受験に内申書なんてあったっけ。

クラス委員を決める時期になると、ぼくは、小学校五年生の時のホームルームを思い出す。その時も、やはり、投票で委員長を決めることになっていたが、転校して来たばかりで、あまり事情の解っていないかった。ぼくは、教壇の前の席のおっとりした様子の女の子の名前を書いた。(A) やさしそうに見えたからだ。そのことが、(B) 重大事件のように扱われるとは予想もしていなかったのだ。

開票が進み、その女の子の名前が呼ばれた時、黒板に向かって、正の字を書いていた生徒は信じられないという様子で後ろを振り返った。クラス全員の子たちが、くすくすと笑い始めた。ぼくは、何がどうなっているのやら、(C) 解らずに、あたりをききよる見渡した。その瞬間、担任の教師は立ち上がり、大声で怒鳴った。

「誰だ！ 伊藤友子の名前を書いた奴は!?」

皆、くすくす笑うばかりだった。ぼくは、(D) 仰天してしまったのと、腕力の強そうな男の教師に怯えたのとで、返事をするさかいを失ってしまった。

「誰だか手を上げると言ってるんだ！ ふざけるにも程があるぞ!!」

ふざける？ ぼくは、こんらんして、その言葉を頭の中で反芻した。伊藤友子の名を書くことは、ふざけたことなのか？ クラス全員が委員長になり得る、そういうことから、投票で決めることになっていたのではなかったのだろうか。

教師が怒鳴っている間、伊藤友子は、(E) 下を向いたきりだった。肩が震えているように見えた。ぼくは、小聲で隣の席に座っている男子生徒に尋ねた。

「ねえ、どうして、伊藤さんの名前を書いちゃ駄目なんだい」

彼は、迷惑そうに答えた。

「馬鹿だから」

その瞬間、教師は、ぼくたちに目を止めて、再び怒鳴った。

「そこ!! 何、喋ってる。(F) 真面目にならんか!」

隣の生徒は、ぼくに向かって舌打ちをした。ぼくは、肩をすくめていた。教師は腹立たしげに音を立てながら、教室じゅうを歩き回った。

「先生は悲しいよ。皆に行動力をつけさせ、自立心をやしなうために、クラス委員長を選挙で決めてるというのに。それをふざけたいどで、馬鹿にするとは。投票はやり直した。二度目は、自分の名前も横に書くこと。委員長、副委員長、書記、その横に、自分の名前を書いて、記入すること。解ったね」

「解りません」

教師の足が、ぼくの言葉で止まった。ぼくは、小さく呟いただけのつもりだったが、その反対をしゅちようする言葉は予想外に響いてしまったようだった。教師はひたひたに筋を浮き立たせて、振り返った。

「誰だ!! 今、解りませんと言った奴は!! 立て!」

仕様がなくぼくは立ち上がった。クラスじゅうが、ざわめいた。

「時田か。転校して来たばかりで、この学校のことを何ひとつとして解つとらんくせに。で、どうして、解りませんと答えた? それを説明してみなさい」

「だって、伊藤さんの名前を書いたのは、ぼくだからです」

一斉に驚きの声が上がった。信じらんない。そういう叫びにも似た声が、ぼくの耳に突き刺さった。

「……おまえだったのか。しかし、何故だ。転校して来たばかりとはいえ、誰を選んで良いのか、おまえにも区別はつくだろう。それとも、茶化してみたかったのか」

「そうではありません」

「じゃ、まだ友達が出来なくて、事情が飲み込めてなかったんだな」

「そういうんでもないです」

「じゃ、何なんだ」

「伊藤さんが、クラス委員長でも良いと思ったからです」

「なに!!」

再び、笑いの渦が起こった。

「きさま、このクラスをなめているのか」

「なめてません。先生、どうして、伊藤さんでは駄目なんですか？」

教師は、言葉に詰まって唇を歪めた。

「……じゃ、おまえは、何故、伊藤が相応しいと思ったんだ」

「親切そうだからです」

誰もが笑い転げた。中には、机を叩いているものもいた。ぼくは、無然としたまま、教師をにらみつけていた。訳の解らない怒りが、ぼくの心に急速に湧いて来たのだった。

「まあ、いい。時田は、転校生で何も解らんのだ。皆、投票をやり直す必要はない。どうせ一票ぐらいむこうがあつたつて、結果には変わりないのだ。丸山、残りのやつを開票しなさい。時田は座つてよろしい。今後、注意するように」

そうは行かなかった。ぼくは、伊達に、十一年間生きて来たのではないのだ。ここで引き下がるのは恥だ。ぼくの母は、いつも、格好の良い男になるのよ、と、ぼくを諭してくれたのだ。

「先生は、ぼくの質問に答えていません」

「何？」

「どうして伊藤さんでは駄目なのですか」

「……」

「勉強が出来ないからですか？」

教師は答えなかった。ぼくを完全に無視したまま、丸山という前回の委員長に、残りの票を読み上げるよう促した。伊藤友子の名は、もう呼ばれることはなかった。ぼくは、仕方なく腰を降ろしたが、気持は暗かった。前に目をやると、机に伏せて鼻を吸っている伊藤友子の姿が見えた。ぼくは、この時、初めて、大人を見くたすことを覚えた。

「それでは、副委員長は女子から、黒川さん、書記は、二番目に票の多かった男子と女子から一名ずつ、時田くんと、沢田さんになります」

ぼくは、我に返って黒板を見た。その前で、りはつそうな女生徒が挨拶をしていた。ひたいが綺麗だなあとぼくは思った。(中略) 一つのまにか、ぼくの名が呼ばれた。くすくすと笑い声が洩れる。いつも、そうなのだ。ぼくが、何か行動を起こす段になると、女の子たちの好意的な笑いが周囲に巻き起こる。そして、ぼくは、それが大好きだ。

「時田秀美です。最初に言っとくけど、ぼくは勉強が出来ない」

生徒たちは笑い転げた。ぼくは、どうしてうけちゃうのかなあと呟いて頭を掻いた。

「おまけに字も下手だ」

益々、皆、笑い続けた。

9 「それなのに、どうして、ぼく、書記なんかになっちゃうの」

誰もやりたくないからよ、という声が飛んだ。ぼくは、その声の方を指差して言った。

「違う。ぼくが人気者だからだ」

担任の桜井先生が笑いながら、ぼくに言った。

「おい、時田、冗談は、そのくらいにしておけ。おまえが、勉強出来ない人気者だったのは、皆、もう知ってる」

ぼくは、先生を見て肩をすくめた。誰もが笑っていた。もちろん、めでたく委員長になった脇山をのぞいては、

姓	
名	
学	
年	

※この用紙には受験番号と解答以外は一切書いてはいけません。
※句読点やその他の記号も一字と数えます。

◎別紙の文章をよく読んで、次の問いに答えなさい。

① — a～jの部分の漢字に直しなさい(送り仮名が必要なものはそれも書くこと)。

a () (b) (c) (d) (e) ()

f () (g) (h) (i) (j) ()

② (A) (F) に入る最も適切なことばを次の中から選んで、記号を書きなさい(同じ記号は二度以上使いません)。

ア ずつと イ まるで ウ もつと エ さつぱり オ すっかり カ なんだか

A () B () C () D () E () F ()

③ A 「ばかり」、B 「ながら」と同じ意味で使われているものを次の中から選んで、記号を書きなさい。

A ア言い訳ばかりする。 イ 妹は出産したばかりだ。 ウ 今にも泣きださんばかりの顔だ。 ()

B ア知っているながら教えない。 イ 昔ながらの方法を用いる。 ウ テレビを見ながら調理をする。 ()

④ — 1、脇山は「ぼく」のどういふところを忌々しく思っているのですか。文中から九字ぬき出して答えなさい。

--	--	--	--	--	--	--	--	--

だというところ。

⑤ — 2、脇山がこのような様子になっているのはなぜですか。

()

⑥ — 3、どこまでが小学校五年生の時の回想ですか。回想場面の終わりの五字をぬき出しなさい。

--	--	--	--	--	--	--	--	--

⑦ — 3、この回想場面では、伊藤友子のどういふ様子から、彼女がいたたまれない思いをしているということがわかりますか。できるだけ文中のことばを使って二つ答えなさい。

() ()

⑧ — 4、何がおかしくてクラス全員が笑っているのですか。できるだけ文中のことばを使って答えなさい。

()

⑨ — 5、「ぼく」には何が解らないのですか。

()

⑩ — 6、この教師はどのような生徒が委員長に相応しいと考えていたと思われますか。また、「ぼく」はどのような生徒が委員長に相応しいと考えていたと思われますか。

教師 ()

() 「ぼく」 ()

⑪ — ア、イ、同じ「笑い転げた」でも、クラスの生徒たちの「ぼく」への気持ちは違います。それぞれ、どのような気持ちですか。

ア ()

イ ()

⑫ — 7、ここでは、どのような男を「格好の良い男」だと「ぼく」は考えていますか。

()

⑬ — 8、この時、「ぼく」は誰の、どのような態度を見くだしたのですか。

()

⑭ — 9、「それ」はどんなことを指し示していますか。できるだけ文中のことばを使って答えなさい。

()

⑮ — 10、多くの者が脇山に投票した実際の理由は何だと「ぼく」は考えていますか。できるだけ文中のことばを使って答えなさい。

()